

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「沙石集 う歌ゆえに命を失ふ事」問題

天徳の御歌合のとき、兼盛、忠見、ともに御隨身アにて、左右に①番ひてイケリ。初恋と

②いふ題を③給はりて、忠見、名歌④詠み出し_ウたりと⑤思ひて、兼盛もいかでこれほどの歌

⑥詠むエべきとぞ⑦思ひオける。

⑧恋すてふわが名はまだき⑨立ちカにキけり人⑩知ら_クずこそ⑪思ひそめヶしか

さて、すでに御前にて⑫講じて、⑬判ぜ_コられ_サけるに、兼盛が歌に、

⑭つつめども色に⑮出でシにスけりわが恋はものや⑯思ふと人の⑰問ふまで

判者ども、名歌セなりソければ、⑮判じ_チわづらひて、天氣を⑯うかがひタけるに、帝、忠見が歌

をば、兩三度御詠⑯あり_チけり。兼盛が歌をば、多反御詠⑯あり_ツけるとき、

天氣左に⑯ありとて、兼盛_{勝ちテ}にトけり。

忠見、心憂く⑯おぼえて、心_ニふさがりて、不食の病_ノつきナ_ニけり。頼みなきよし_ニ聞きて、

兼盛_ノとぶらひ_スければ、「別の病_ノに_ニあら_ノず。御歌合のとき、名歌_ノ詠み出だしておぼえ

⑲侍りハしに、殿の『ものや⑲思ふと人の⑲問ふまで』に、あはと⑲思ひて、あさましく

⑳おぼえヒより、胸_ニふさがりて、かく_ニ重り_ニ侍り_フぬ。」と、つひに_ニみまかりへ_ニホけり。

古文品詞分解（動詞・助動詞）「沙石集」歌ゆえに命を失ふ事く 解答

断定

力四用

過去

天徳の御歌合のとき、兼盛、忠見、ともに御隨身アにて、左右に①番ひてイケり。初恋と

ハ四体

ラ四用

サ四用

ラ下二用

完了

詠嘆

ラ下二用

打消

マ下二用

過去

②いふ題を③給はりて、忠見、名歌④詠み出しウたりと⑤思ひて、兼盛もいかでこれほどの歌

マ四終

当然

ラ四用

過去

⑥詠むエべきとぞ^⑦思ひオける。

ハ四終

タ四用

完了

詠嘆

ラ下二用

打消

マ下二用

過去

⑧恋すてふわが名はまだき^⑨立ちカニキけり人^⑩知らクズこそ^⑪思ひそめケしか

サ変用

サ変未

受身

過去

さて、すでに御前にて^⑫講じて、^⑬判ぜコられ^{サケル}に、兼盛が歌に、

マ四終

ダ下二用

完了

詠嘆

サ変用

ハ四用

過去

断定

過去

完了詠嘆

サ変用

ハ四用

過去

判者ども、名歌セなりソければ、^⑯判じ^⑰わづらひて、天氣を^⑱うかがひ^{タケル}に、帝、忠見が歌

タ変用

完了過去

ハ四用

過去

をば、をば、兩三度御詠^㉑ありチけり。兼盛が歌をば、多反御詠^㉒ありツけるとき、

タ変用

完了過去

ハ四用

過去

天氣左に^㉓ありとて、兼盛^㉔勝ちテにトけり。

ヤ下二用

過去

ラ四用

過去

カ四用

完了

過去

忠見、心憂く^㉕おぼえて、心^㉖ふさがりて、不食の病^㉗つきナニケリ。頼みなきよし^㉘聞きて、

ヤ下二用

過去

ラ四用

過去

カ四用

完了

過去

兼盛^㉙とぶらひスければ、「別の病^㉚にあらノズ。御歌合のとき、名歌^㉛詠み出だしておぼえ

ラ四用

過去

ハ四用

過去

カ四用

完了

過去

③侍り^{ハシ}に、殿の『ものや^㉛思ふと人の^㉜問ふまで』に、あはと^㉝思ひて、あさましく

ヤ下二用

過去

ラ四用

過去

カ四用

完了

過去

④おぼえヒより、胸^㉟ふさがりて、かく^㉞重り^㉙侍り^フぬ。と、つひに^㉛みまかりへ^ヘにホケり。